

LEVEL
3



日本語教材をつくる会い
にほんごきょうざい
かい
平和の大切さを伝える
へいわ
たいせつ
つたえる
制作
せいさく
絵え
かた
語たり
かた
士井理絵子
どいりえこ
飯田國彦
いいだくにひこ



朗読音声のダウンロード
Audio download

★読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。
次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.





ぼくの名前は、飯田國彦です。日本人です。
いいだくにひこ にほんじん

せんきょうひやくよんじゅうねん まんしゅううく いま ちゅううぐく とうはく
一九四二年に満州国（今の中国の東北）
ちほう う

お姉ちゃんで生まれました。お父さんとお母さん、
ねえ とう かあ

よにんかぞく
お姉ちゃんとぼくは、近所の中國人の友だ
ねえ きんじょ ちゅうごくじん とも

ひと、毎日仲よく遊んでいました。ぼくたち
ちゅうごくじよ じょうず はな

は中國語を上手に話していました。

(一九四二年ごろの日本) せんきゅうひやくよんじゅうねん にほん



お母さんは、ぼくとお姉ちゃんを連れ
て、おじいさんとおばあさんがいる広島へ
に帰ることになりました。

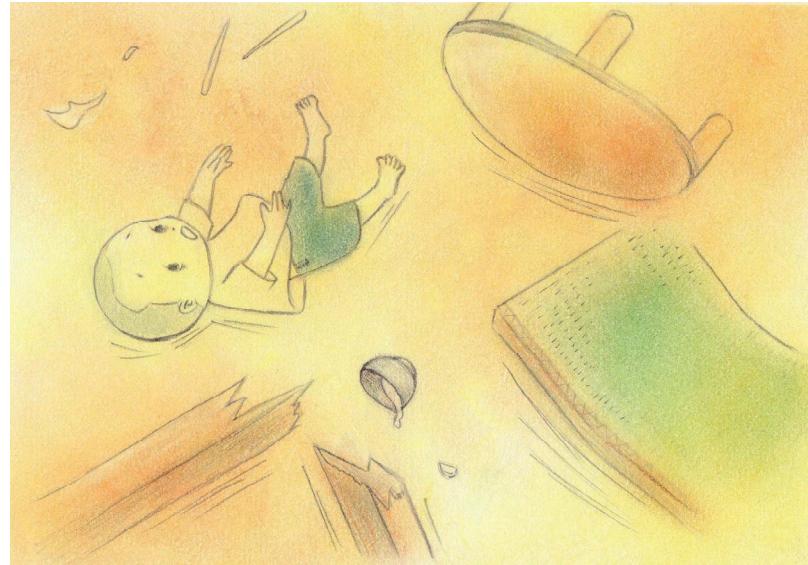
ぼくの国は戦争をしていました。
一九四五年の春にお父さんは戦争に行きました。そして、
沖縄で亡くなりまし

おんぶする = carry someone's on one's back

ひろしま
広島でおじいさんとおばあさんが迎えってくれました。
ぼくは二歳でした。



ひる よる なんにち ある
昼も夜も何日も歩きました。
お母さんは時々ぼくをおん
ぶしてくれました。食べ物も飲
み物もありませんでした。港
から船に乗りました。



どん！

おお
大きい音がしました。

はらじじゅうご分
八時十五分 広島に原子爆弾が落とされました。

ました。

ぴかっ!! (onomatopoeia) flash

どん!! (onomatopoeia) bang

まっしろ pure white 原子爆弾!! atomic bomb

ぼくたちは、おばさんの家いえに行きました。

ぼくは かだらじゅう いた
体 中 が 痛 く て、 每 日 泣 い て い ま し た。 布 団 ふとん から 起 き 上 が れ ま せ ん で し た。

お母さんとお姉ちゃんは別の部屋に寝ていました。

「スケル」

「へい…」

「おかあちゃん」

ふたり
二人は、段々と話さなくなりました。

きゅう つよ かぜ ふ
急に強い風が吹きこんてきて、ぼくは 置と一緒に飛ばされました。
そしで、壊れた家と一緒にお落ちました。

おかあちゃん、たすけてえー。

何度も声を出したかつたけれど、声が出ませんでした。

お母さんもお姉ちゃんも、壊れた家の下にいました。

ぼくは体中が熱くて動けませんでした。
からだじゆうあつ

しばらくたつてから、おじいさんがぼくたちを助け出してくれました。



おばあさんは、一生懸命ぼくの
世話をしてくれました。

毎日ぼくのために洗濯をしたり、
食事を用意したりしてくれまし
た。

でも、ぼくは口の中も痛くて、
ほとんど食べられませんでした。
ぼくは一人になりました。五歳でした。



ある日お葬式屋さんが来て、お母さんとお姉ちゃんを棺桶に入れました。そしてぼく
も棺桶に入れようとした。

「その子はまだ生きています！」

おばあさんは大きな声で言いました。

お母さんは二十五歳で、お姉ちゃんは四歳で亡くなりました。
その時、ぼくは三歳でした。

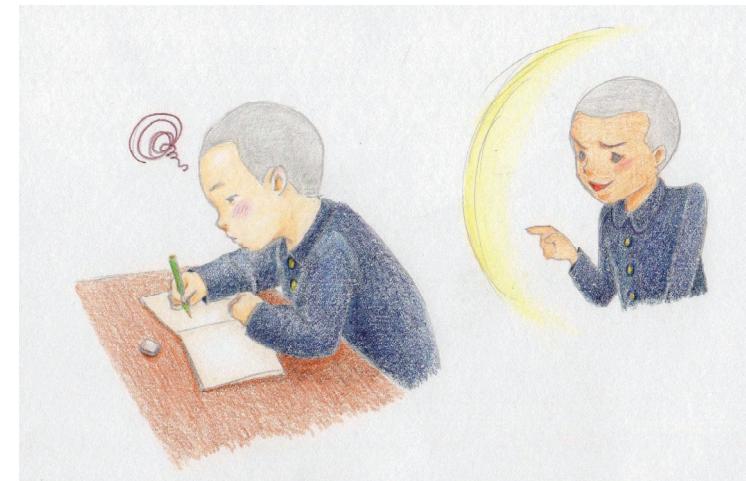
ぴかぴか=shiny



おじさんは色々なものを売つて、ぴかぴかの黒いランドセルを買ってくれました。ぼくはとてもうれしかったです。



そして、ぼくは六歳になりました。おじさんは、戦争が終わって二、三年後、フィリピンから広島に帰つて来ました。ぼくはおじさんと一緒に住むことになりました。



でも、ぼくはずつとめまいがしていました。ランドセルを背負つて学校に行きたかったけれど、時々、学校に行くことができませんでした。
ぼくは十歳ぐらいになつて、前より元気になりました。頑張つて学校へ行きました。でも勉強がわからないし、友だちもできませんでした。
学校のみんなは、ぼくの火傷した顔や腕を見て、ぼくをいじめました。それでもぼくは学校に行きました。

めまいがする=feel dizzy
やけど
火傷=burn いじめる=treat

ぼくは生まれて初めて人から褒められました。心のなかがとても明るくなりました。ぼくは福原先生の言葉に、毎日学校に行けないことも、友だちがいないことも気にならなくなりました。

原爆"原子爆弾



ぼくは中学校に入りました。原爆から十年でした。でも、まだ勉強が全然わからなかつたし、友だちもいませんでした。でも、学校に行きたかったから、頑張って学校に行きました。

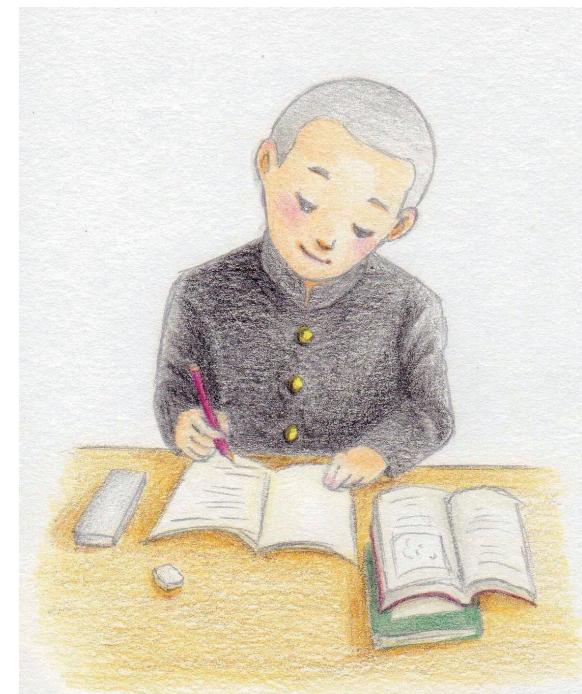
中学校の先生は福原先生でした。大学を卒業したばかりの男の先生でした。ぼくは勉強がわからなかつたけれど、学校のことは何でも頑張りました。

日本の学校の先生と子どもは、一緒に学校を掃除します。掃除の時間に階段を拭いていたら、福原先生が

「飯田くん、頑張っているね。きれいになつたね。」

と褒めてくれました。

福原先生が褒めてくれたことで、ぼくは変わりました。



ぼくは、その日から毎日、家でも勉強するようになりました。

次のテストで、生まれて初めて五十人のクラスで二十二番になりました。とても嬉しかったです。

それからぼくは、もっともと勉強を頑張りました。それで次のテストでは、クラスで一番になりました。十五歳になって、学校で一番になりました。



いいだくにひい 飯田國彦さんは七十五歳（にせんじゅうしちねん）です。結婚して子どもが二人います。働きながら勉強して博士号もどりました。

いいだ 飯田さんは毎日のように広島の平和公園で、子どもたちに原爆の体験を話しています。

いま 今も、中学校の福原先生にとても感謝しています。

いいだ 飯田くん

ねん がつ にちはつこう
2018年5月31日発行

かた いいだくにひこ
語り：飯田國彦

え ど い り え こ
絵：土井理絵子

せいさく へいわ たいせつ つた にほんごきょうざい かい
制作：平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会

あさ べ やすこ つちもと ゆ い こ なかごしなおみ ながみね さ ち こ
(朝辺泰子、榎本由緒子、中越尚美、長峯佐知子、
はしもとれいこ もりしたさちこ
橋本玲子、森下幸子)

※「飯田くん」のレベル1版は、NPO多言語多読監修のもと、

ねん がつ たどく たいしゅうかんしょでん しゅつばん
2019年1月に「にほんご多読ブックス」(大修館書店)として出版
されます。



NPO多言語多読
tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-変更禁止4.0国際ライセンス
の下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>